

区分

A 中小都市、過疎地など  
【人口10万人未満の自治体】

高齢者等の通院通所・  
社会参加支援

他分野による交通事業の活用

医療・介護・福祉  
×交通

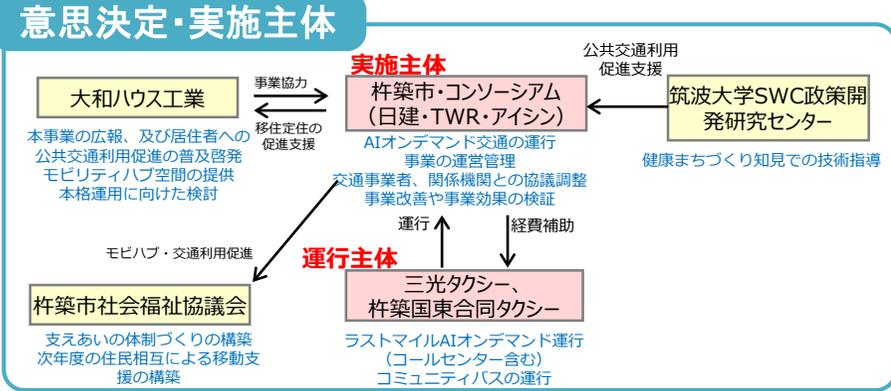
地域・移住  
×交通

### 対象地域

- 地域：大分県杵築市
- 人口：27,999人
- 世帯数：12,028世帯
- 高齢化率：38.2%
- 面積：280km<sup>2</sup>

### 背景・お困りごと

- 杵築市では「健幸長寿のまちづくり」を重要な施策と位置付けているが、勾配が急な地形である梶ヶ浜地区では市街地にアクセスするコミュニティバスの停留所まで遠いことから、移動手段のほとんどが自家用車に依存している
- このため、免許返納者や一人暮らし世帯、要介護高齢者になると生活がしづらい環境となり、都市圏に戻る世帯も多く、公共交通問題が定住化の阻害要因となっている



### 実施内容

自宅から停留所を結ぶラストマイル専用のAIオンデマンド交通を導入するとともに、健康増進プログラムと連携した健康調査や行動変容を調査  
▼モビリティハブでの健康相談の様子

### 概要

- モード：AIオンデマンド交通 (許可不要)
- 予約方法：電話・WEB
- 料金：無料




### 重要ポイント

- 自宅からコミュニティバスのモビリティハブ（停留所）までお送りし、市街地への「まちなか移動」につなげる運行を提供した
- モビリティハブで健康相談等の各種イベント開催により、日々の外出機会を増加させることで「歩く+公共交通」という選択肢を提供した
- 大学と連携し、活動量計の健康データを記録・分析したことで、健康と公共交通の利用促進の関係性について調査した

### 運行実績・成果

### 運行実績

- 運行期間：2024/12/2～2025/1/31
- 利用者数：130名 (28日間運行)
- 平均乗合人数：4.6人/日

収入	0円 (無料運行で実施)	
支出	初期費用	850,300円 (AIオンデマンド交通導入費)
	ランニングコスト	2,512,580円 (AIオンデマンドシステム利用費：799,700円、車両運行費：1,712,880円)
損益	▲3,362,880円 ※ (共創・MaaS実証プロジェクトを活用)	

### 成果

- 利用者のうち63%から「移動困難を理由とした受診控えの心配が減った」との回答が得られた
- 勾配のある地域では、1km<sup>2</sup>未満の狭域エリアであってもラストマイル交通の需要があり、AIオンデマンド交通が有効に機能することが分かった
- 健康意識と公共交通利用意向には正の相関があり、今後も健康まちづくりを促進することで、公共交通の利用促進に繋がることが期待される

### 今後の事業展開

<今後の事業展開時の運行における根拠法令(予定)：許可不要>

- ラストマイル交通を住民互助による移動支援サービスとして実施するため、運行体制の確保（ドライバー、運行管理）、運営費の確保（介護予防事業訪問型サービスD）、AIオンデマンド交通の実装可能性の検証
- ウォーキングやイベント参加、健診受診、公共交通利用等に対しポイント付与する事業実施のほか、健康施策との一体的な取り組みを継続し「発展健幸アンバサダー」事業を展開